

大阪府立大学総合情報センター報

第18号 2002年12月

# Aurion

ア ウ リ オ ン

明日(ギリシャ語でアウリオン)に向けて知識の宝庫を活かす  
情報の集積と発信のための総合情報センター



フリッキイ・メコノプシス (故中尾佐助名誉教授撮影)

## Contents

☆図書館あれこれ (大学院工学研究科教授 原 惟行) .....	P 2
☆ISIデータベースの概要 .....	P 3
☆文献検索データベースに新しい仲間がふえました	
朝日新聞記事データベース (DNA) .....	P 4
大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版 (WebOYA-bunko) .....	P 5
☆情報コンセントの利用について (情報システム部) .....	P 7
<ピックアップ情報> .....	P 8
視聴覚室にDVDプレーヤーを設置しました/ジュリスト内容総索引CD-ROMを購入しました	
表紙写真について/Uホール白鷺の利用状況	

## 図書館あれこれ

大学院工学研究科教授  
原 惟行

「薔薇の名前」(1986年仏独伊合作)という映画を覚えておられるでしょうか。ミステリー好き、歴史好き、そして特に古書マニアにとってはこたえられないゾクゾクするような傑作です。(府大総情のAVコーナーにこの映画のレーザーディスクがあります。)14世紀前半の北イタリアのベネディクト修道院が舞台の中世異端審問ミステリーでした。写字台がずらっと並んだ中世の写本室で羊皮紙に彩色写本を製作する修道士や稀覯本がぎっしり詰まった迷宮のような図書室が印象的でした。映画のラストでショーン・コネリー扮するフランチェスコ会修道士が燃え上がる迷宮図書室から数冊の稀覯本を抱えて辛くも脱出する場面は手に汗にぎりました。ところで、あの稀覯本はいかにも古そうなこげ茶色の革製本

だったのですが、あのような製本形式は15世紀後半～16世紀以降のもののように考えられ、ちょっと残念。14世紀前半なら、普通は羊皮紙装やヴェラム(仔牛革)装の乳白色の装幀です。映画ではこげ茶色の革装幀の方が雰囲気マッチすると判断したのでしょう。ケチをつけるつもりはないのですが、もう一つ。ベネディクト修道院では写本室や図書室で火のついた灯りを使うことは火災防止上厳禁だったし、

写本室では完全な静寂が要求され会話などあり得ません。夜間、写本室や図書室に火のついた灯りをもって入るなどと言うのは論外なのです。現代でも、書庫では火気厳禁です。まあ、それでは映画になりませんね。

イタリアで見た図書館で印象に残ったところをひとつずつ紹介してみよう。2000年7月、シシリーのカターニャでWCNA2000という数学関係のコンgresに参加したときのことです。7月21日の夜、コンgresのパンケット(晩餐会)が昔のベネディクト修道院の回廊を使って行われました。中庭には古いゴシック様式の聖堂の一部らしい建築物も保存されており仲々素晴らしい雰囲気でした。現在この建物はカターニャ大学文学部が使っています。さて、パンケットの3日後この建物の中を歩き回っていたら偶然、図書館に行き着きました。入口は見逃しそうなくらい狭いし、図書館というプレートも無いのですが、中を少し覗くと仲々立派です。受付の女性に「見学しても良いか?」と聞くと「どうぞ、こちらへ」と言って

心得顔で先に立ってどんどん奥の方に歩いて行くのです。どこへ連れて行ってくれるのかなあ」と思いながらついて行くと、「エッコ(どうぞ、ここです)」と言って入れてくれたのがすごく立派な大きな図書室だったのです。高い天井には美しい壁画が描かれ、床はモザイクのタイル。まるで宮殿の中に居るような感じ。四方の壁一面に天井までぎっしり革装の古書が詰まっていて、その半数は白っぽい羊皮紙やヴェラムの装幀です。ほんとうに古い時代の本の装幀は羊皮紙やヴェラムなのです。どうやら、ここは図書室が有名で、ときどき見学者があるらしく、受付係は東洋人の小生がわざわざ見学に来たと勘違いしたのです。ところが壁の書棚に近づいて本を見ようとすると、「入口からまっすぐに敷いてある絨毯

から出たらダメ」とおっしゃる。どんな蔵書が有るのかじっくり見たいのに残念。こんなに立派な図書室は滅多にありません。圧倒されました。降参です。この受付の年輩の女性は英語が出来なかったので詳しいことが聞けず、ちょっと残念でした。

もうひとつ印象に残っているのは、1991年1月から大阪府の在外研究員として1年間滞在したフィレンツェ大学ディニ



室内の様子



天井の壁画

カターニャ大学文学部図書室

数学研究所の図書館です。この図書館で感心したのは稀覯本より普通の学術雑誌の製本でした。どこの大学でもやっている通常の布製本以外に背革の製本雑誌がかなりあるのです。司書に理由を聞いてみると、製本の形を統一するためそれぞれの雑誌の最初の製本形式を踏襲しているとのこと。ですから例えば、1850年に創刊された Annali di Matematica Pura ed Applicata などという雑誌は1850年の最初の革製本の形式をそのまま今だに続けていると言うわけなのです。へえ～と言う感じ。フィレンツェの街の中には今でも革製本をやっている製本屋がかなり有るのですが、大学図書館からいまだに雑誌の革製本の注文が有り、これによって古くからの製本技術が保たれているという訳です。伝統的技術を守ろう、などと言う掛け声だけではなく、上記雑誌で言えば、実際にひとつの形式の革製本の注文を150年も出し続けているところがすごいですね。日本人の短期決戦型とは根本的に違う、何か、石造りの永続性のような体力差を感じた次第です。

## ISIデータベースの概要

情報教育システムや研究室等、学内のコンピュータで、WWWブラウザからインターネットに接続できる環境から、ISIが提供するデータベースを利用できます(言語は英語、学内のみ利用可)。

### 1. 学術雑誌の2次情報データベース

ISIとは、学術雑誌の目次ページを集めて冊子にした「Current Contents」を発行して以来、40年以上にわたり、学術情報流通に携わってきたデータベース作成・提供者です。

ISIが提供するデータベースの基本は、学術雑誌の2次情報データベース(目次情報)です。

しかし「抄録(Abstracts)」がほとんどのデータに付いていますので、内容は概ね判断することができます。

またデータによっては、本学で利用可能な電子ジャーナルへのリンクから、Web上で直ちに論文そのものを利用できる場合(Web of Scienceの「view full text」)や、Web上のフリーで公開されているフルテキストへアクセス(Current Contents Connectの「eSearch」)できるものもあります。

### 2. 遡って調べる

#### —Web of Science-SCI



Web of Science-SCIでは、「引用(Citation)」の計量化とWebのリンク機能を生かして、次のように学術情報を効果的に検索できます。

論文作法として、参考にした先行研究の文献は「引用文献(参考文献)」として論文本体とは区別して付されるのが一般です。これら引用文献を利用して、Web of Scienceでは、「引用」を、「引用件数(Cited References)」と「被引用件数(Times Cited)」として計量化します。「被引用件数」が多いことは、それだけ他の研究に影響を与えたということで、業績のひとつの指標になります。「被引用件数」は容易に検索することができます(Cited Reference Search)。

これら引用文献の多くは、「引用した文献」「引用された文献」相互にWeb上でリンクされていますから、容易に関連する文献をたどることができます。関連文献のバックファイルは1984年から利用できます。

\*SCI = Science Citation Index 対象は自然科学分野です。

### 3. 最新情報を調べる

#### —Current Contents Connect



Current Contents Connectでは、学術雑誌の最新目次情報(Current Contents)が利用できるなど、本学でもこれまでCD-ROMサーバで提供してきた機能に加えて、Web上

の最新の学術情報にアクセスできる「eSearch」という機能が追加されています。例えばgoogle等汎用の検索エンジンを利用してWeb情報を検索すると、不必要なデータも多くヒットしますが、この「eSearch」ではISIであらかじめ厳選したサイト(学術的に評価が高いと判断されるサイト)のみを検索対象としているため、効率よく学術情報にアクセスできます。

また最新目次情報が定期的にメールで送信される機能(Alert)も利用できます。

\*Current Contentsは自然科学・社会科学・人文科学の全分野利用できます。

### 4. 学術雑誌の評価を見る

#### —Journal Citation Reports on the Web (JCR)



JCRは学術雑誌の評価年報です。

例えばImpact Factor(雑誌の影響指数)が高ければ、一般的に学界では評価の高い雑誌と考えられます(よく読まれる、よく引用される)。またImpact Factorの年次傾向はグラフ表示されるので、関心のある学術雑誌の趨勢を確認することもできます。学術雑誌の評価指標は、Web of ScienceやCurrent Contentsの検索から見つかった論文を読むべきかどうかの判断材料にもなりますし、また論文を投稿する際の目安にもなるでしょう。

### 5. ポータルサイトに向けて

#### —Web of Knowledge



ISIでは、これらデータベースを、「Web of Knowledge」という共通プラットフォームで利用できるように、融合を進めています。近く「Web of Knowledge」から、Web of ScienceとCurrent Contents Connectの横断検索ができるようになる見通しです。

またPubMed等他のデータベースもWeb of Knowledgeから利用できるようにする計画があるなど、Web of KnowledgeはISIデータベースのポータルサイトとして、段階的に充実が図られています。本学では、このようなWeb of KnowledgeのバージョンアップをUp to dateに利用できる予定です。

#### <利用は...>

総合情報センターホームページの「図書館」のページから、「文献検索」に進んでください。

#### <検索方法については...>

各データベースのオンラインヘルプやWebで公開している詳細な検索マニュアルをご利用ください。

# 文献検索データベースに新しい仲間がふえました

総合情報センターで今年度新しく2つの文献検索データベースを導入しました。「朝日新聞記事データベース(DNA)」と大宅社一文庫雑誌記事索引検索Web版です。総合情報センター図書館ホームページから、学内限定でご利用いただけます。各データベースの概要をご紹介します。

## 朝日新聞記事データベース(DNA)

これまで、朝日新聞の記事データベース検索は、総合情報センターでCD-ROM版をご利用いただいていたのですが、このたび、新たにWeb版のDNA(Digital News Archives for Libraries)を導入しました。学内LANにつながっているコンピュータからの検索が可能になり、時間と場所を気にすることなくご利用いただけます。

### 1. DNAの特徴

Web版のDNAは、次のような特徴があります。

- ・1984年8月～当日の朝刊まで検索可能
- ・東京本社、大阪など各社本紙(最終版)、地方版(収録開始年は各地方版により異なる。沖縄県を除く)の記事を収録
- ・「AERA」(創刊号から)、「週刊朝日」(2000年4月～)の記事も収録

CD-ROM版では、年版により検索画面や機能が異なっていました。しかしながら、Web版では年版ごとのディスク差し替えも不要なため、年版を意識することなく一度に検索することができます。

### 2. アクセスの方法

総合情報センターホームページの図書館→文献検索(データベース)→朝日新聞記事データベース→専用ログイン画面からアクセスできます。学内でのみ利用できます。同時アクセスは2ユーザです。

### 3. 検索について

「シンプル検索」と「パワフル検索」の2種類の検索方法が可能です。なお、「人物DB検索」は、本学では現在ご利用いただけません。

#### qシンプル検索

シンプル検索では、検索語と日付(発行日)を指定して検索することができます(図1、図2)。あまり詳しい知識がなくても、思いついた検索語を入力すれば、簡単に検索することができます。

シンプル検索とはいえ、複数の検索語をAND、OR、NOTを組み合わせて検索することもできます。

日付(発行日)は、1日のみの指定や期間指定、上旬・中旬・下旬などの指定も可能です。検索語を入力した上で、日付を指定しなければ、全期間が対象となります。

検索結果の見出し表示方法は、検索実行する前に変更することができます。一画面に表示する見出し表示件数や表示順序を変更することが可能です。



図 1



図 2



## ②パワフル検索

検索語、発行日、ソース、本紙／地方版、面名、発行社といった複数の検索項目を組み合わせて検索することができます(図3)。



図 3

## ③結果表示に関する注意

見出し一覧画面で、緑色で表示された記事は、著作権の関係で本文表示ができません。日付や面名をメモしたうえで、朝日新聞縮刷版で本文をご覧ください。

## 4. その他の新聞記事の検索

朝日新聞以外の日本の新聞でWEB上で利用できるおもなニュース検索をご紹介します(2002年10月現在)。

新聞本紙の記事検索ではないものもあります。

### <産経新聞>

過去3ヶ月分の産経Webの記事の検索が可能です。

<http://www.sankei.co.jp/>

### <毎日新聞>

「毎日ニュースセレクション」では、過去2年間のWEB上の記事検索や過去の記事カレンダーによるその日のニュース一覧を見ることができます。

<http://www.mainichi.co.jp/>

### <読売新聞>

「ヨミダス文書館」では、会員登録制で、無料コースの場合、過去6ヶ月分の検索が可能です。

<http://dbgwp.yomiuri.co.jp/>

### <日経4紙>

日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞MJ、日経金融新聞の日経4紙の記事検索は、「日経goo」のサイトで、見出しまでは無料となっています。

[http://nikkei.goo.ne.jp/ppv/nkg\\_top.cgi](http://nikkei.goo.ne.jp/ppv/nkg_top.cgi)

また、日本経済新聞については、経済学部図書室で1995年以降のCD-ROMを所蔵しています。

\*本文中の図1～3は、朝日新聞記事データベース(DNA)の実際の検索画面です。

## 大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版

<Web OYA-bunko>をしよう!

2002年8月から、学内LANにつながっているコンピュータで大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版(Web OYA-bunko)がご利用いただけるようになりました。

### 1. 大宅壮一文庫とは

大阪府出身の評論家大宅壮一氏は、第二次世界大戦後に社会評論や人物評論で活躍しました。大宅氏亡き後に遺された約20万冊の雑誌や雑本からなる蔵書は、散逸しがちな大衆雑誌や週刊誌などが多く含まれていました。これらの貴重な資料を引継いで財団法人大宅文庫(1978年大宅壮一文庫と改称)が設立されました。

明治時代から現在まで、1万種類60万冊の雑誌を所蔵しその雑誌記事索引を作成しています。当初は冊子体であった雑誌記事索引はCD-ROMの形態でも刊行されるようになりましたが、ついにインターネット上で検索できるWeb版で利用できるようになりました。

### 2. どんな雑誌が検索できるのか

大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版(Web OYA-bunko)では、1988年以降最新まで、国内で発行された週刊誌、総合誌、女性誌など約300誌が収録の対象となっています。政治経済関係のオピニオン誌から写真週刊誌まで、日本の現代の世相を反映した雑誌の記事索引を170万件以上検索することができます。月1回1万数千件のデータ更新を行っています。

主要所蔵雑誌の一覧は、財団法人大宅壮一文庫のホームページで確認することができます。

<http://web.ffn.ne.jp/~oyabunko/zassi.htm>をご覧ください。

### 3. アクセスの方法

総合情報センターホームページの図書館→文献検索(データベース)→大宅壮一文庫雑誌記事索引検索Web版からアクセスできます。学内でのみ利用できます。同時アクセスは1ユーザです。

また、ブラウザの設定によりアクセスできない場合がありますので、必ずホームページにある「接続時の注意点」<http://www.center.osakafu-u.ac.jp/library/database/oya.html#oyacaution>をご覧ください。

### 4. 検索方法

「簡単検索」「詳細検索」「分類別検索」の3種類の検索方法が可能です。

### ①簡単検索

記事タイトルをフリーワードで全文検索することができます。複数の用語をAND、OR、NOTで検索することができます。

### ②詳細検索

フリーワード、執筆者、発行日、記事種類、雑誌名、雑誌ジャンルといった複数の検索項目を組み合わせて検索することができます。

### ③分類別検索

大宅社一文庫独自の分類データで検索します。体系は、大・中・小の三階層に分かれています。その内訳は、大項目33、中項目695、小項目約7000となっています。

大項目には、「政治」「世界」「災害」「犯罪・事件」「世相」「マスコミ」「日本研究」などが取り上げられています。

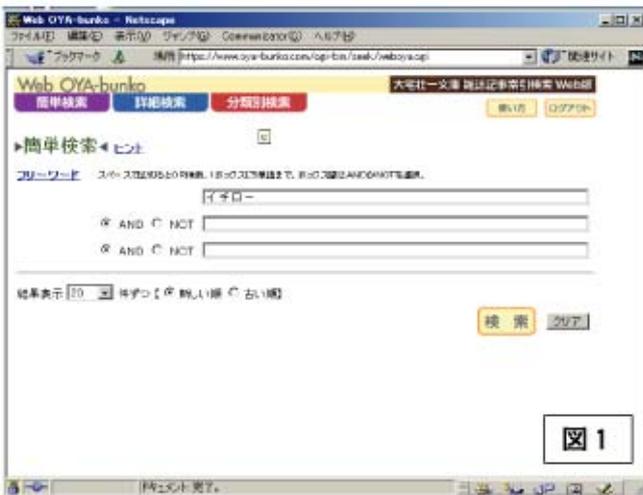
分類別検索は、「人名検索」、「職業別人名検索」、「職業ジャンル検索」、「件名項目検索」、「件名キーワード検索」の5種類の検索ができます。

## 5. 検索結果の表示

検索結果は、画面に表示できる件数や表示の順序を変更することができます。また、「印刷用表示」ボタンをクリックすると、印刷したときに見やすい画面に編集されます。「複写申込書表示」ボタンをクリックすると、大宅社一文庫に雑誌記事の複写を申し込むための「複写申込書」を印刷することができます。実際に、複写取り寄せを希望される場合は、まず、学内での所蔵を確認してください。府大所属の方は、学内で所蔵していない場合、大学等図書館間の相互利用制度での複写依頼も可能ですので、カウンターで相談してください。

## 6. 検索例

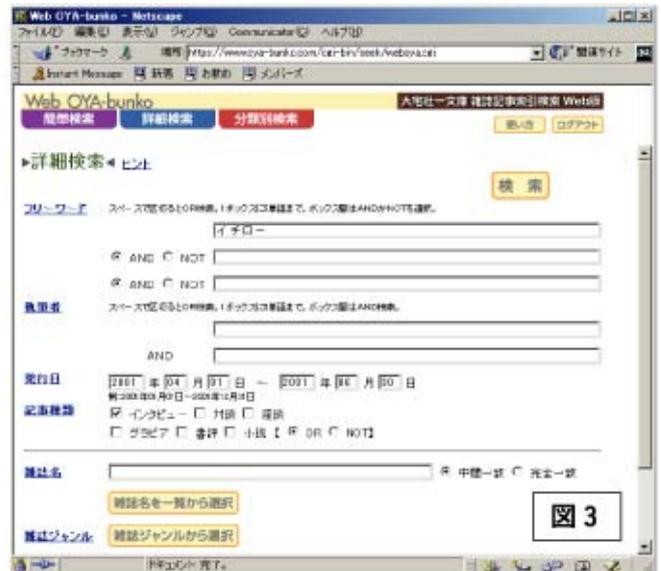
アメリカメジャーリーグのイチロー選手についてどんな記事が書かれているか検索してみましょう。



簡単検索で、フリーワード「イチロー」を入力して(図1)検索すると2000件以上ヒットします(図2)。



「2001年4月1日から6月30日以降発行の雑誌に掲載されたイチローのインタビュー記事」というように、複数の検索条件を組み合わせたときには、図3のように詳細検索を使うと便利です。



また、他の検索方法として、分類別検索の中の人名検索で検索することもできます。

この他にも、世間を騒がせた事件や世相・風俗を小項目として取り上げていますので、簡単に検索することができます。

明治～1988年までの雑誌記事索引は、総合情報センター1F参考図書コーナー(請求記号027.5/O95)にある「大宅社一文庫雑誌記事索引総目録」で調べることができます。

学術雑誌の文献検索とは違った視点での検索も可能な大宅社一文庫雑誌記事索引検索Web版をぜひお試しください。

\*本文中の図1～3は、大宅社一文庫雑誌記事索引検索web版の実際の検索画面です。

# 情報コンセントの利用について

総合情報センター助教授  
宮本 貴朗

## 1. はじめに

総合情報センター2階のグループ研究室全室と、地下1階の図書閲覧室の一部に、皆さんが自分のパソコン(ノートPC)を持ち込んでネットワークを利用するための「情報コンセント」と呼ばれているコンピュータネットワークの接続口を用意しています。この情報コンセントに皆さんの手持ちのノートPCを接続すると、オープンスペースやサテライトホールに設置してあるコンピュータと同じようにネットワークを利用することができます。

詳しい利用方法については、後述のURLを参照してもらうとして、ここでは、情報コンセントを利用するために必要な資格、機器、利用に当たっての注意点について説明します。これから自分でノートPCを購入しようかと考えている人も、情報コンセントを利用して自分のノートPCをネットワークに接続することも考えておくと後々便利かもしれません。

## 2. 情報コンセントとは

情報コンセントとは、コンピュータをネットワーク利用する為に設けられたネットワーク接続口(ケーブルの差し込み口)のことで、普通の電話に用いられているモジュラジャックと良く似た形状(電話の場合はRJ11という規格で、イーサネットの場合は通常はRJ45という規格)ですが、コネクタの大きさが異なります。

通常、コンピュータをネットワークに接続して利用するためには、IPアドレスなどの情報を各機器に設定する必要がありますが、情報コンセントではDHCPプロトコルにより、サーバ側からIPアドレス等のネットワークの接続に必要な各種の情報を自動的に取得することでネットワーク接続が可能になります。ただし、ただ情報コンセントにケーブルを接続するだけでネットワークがすぐに利用できるのではなく、特定の手順を踏む必要があります。

他の多くの大学でも、同じような情報コンセントや無線LANのサービスを行っているところがありますが、総合情報センターなどの不特定多数が出入りする場所でのサービスは、利用資格のある人だけがネットワークを利用できる仕組みを用意しないと、無断で誰でもがネットワークを利用できることになり、セキュリティに関しての問題が発生します。そのため、総合情報センターの情報コンセントは正規の利用者であるかどうかを利用者ID(アカウント)とパスワードで認証する仕組みになっています。

## 3. 利用に必要な資格、機器

総合情報センターに設置している情報コンセントの利用資格は、「情報教育PC/WSシステム」の利用者IDを持っていること、「PPP/情報コンセントのパスワード」を取得している必要があります。「PPP/情報コンセントパスワード」の申請は月～金、午後2～4時の間、総合情報センター3階技師室で受け付けていますので、筆記用具及び学生証を必ず持参の上で申請を行って下さい。

次に、情報コンセントの利用のために必要な機器ですが、ノートPCとイーサネットケーブル(UTPケーブル)の持参が必要です。当然のことながら、ノートPCにはイーサネット(10BaseT/100BaseT)の接続ポートを持っていること、OSがDHCPプロトコルをサポートしていることが必要です。そのため、Windows98、Me、2000、XPは標準構成で問題はありますが、Windows95以前のOSはオプションのパッケージをインストールしないと、そのままでは情報コンセントを利用できません。また、利用者認証のためにWebブラウザを使用しますので、なんらかのWebブラウザが動作することが必要です。

イーサネットケーブルにも利用できる条件があり、形状としてRJ45のコネクタであること、ケーブル品質の規格として、カテゴリ-5という規格に対応していることが必要です。イーサネットケーブルは総合情報センターでは用意していませんので、事前に情報コンセントの位置を確認して必要と思われる長さ(5mくらいあれば大丈夫)のケーブルを利用者自身が持参してください。

## 4. 利用可能なサービス

情報コンセントを利用してネットワークに接続すると、オープンスペースやサテライトホールのコンピュータと同様のネットワークサービス(ホームページの閲覧、電子メールの送受信、ファイルの転送など)が利用できます。ただし、プリンターへの出力はできません。

オープンスペースやサテライトホールのコンピュータは、ネットワーク利用のためのソフトウェアの設定が標準的に整備されていますが、自分が持ち込んだノートPCにはそれらの設定がなされていないため、電子メールやファイルの転送を行うには、まず利用環境の設定を行う必要があります。具体的な詳しい設定については、後述のURLを参照してください。

## 5. おわりに

情報コンセントは教育研究目的に開放されているもので

す。教育研究目的でない利用は禁止とします。モラルを守り、「情報教育PC/WSシステム利用のガイド」を読んだ上で教育研究に活用してください。

■情報コンセントに関する質問は月～金9:00～17:30で以下のとおり受け付けています。

- 一般的な質問は図書館カウンターまで
- 技術的な質問はノートPCを持って3階技師室まで

■関連情報URL

- 情報コンセントサービス利用開始について  
<http://www.edu.osakafu-u.ac.jp/notice/index.html#20020620>
- 情報コンセントサービスの利用について  
<http://www.edu.osakafu-u.ac.jp/resource/ic/index.html>
- 情報教育PC/WSシステム利用ガイド  
<http://www.edu.osakafu-u.ac.jp/notice/guide.html>



■ピックアップ情報■

視聴覚室にDVDプレーヤーを設置しました

このたび、以前からご要望のありました、DVDプレーヤーを視聴覚室に設置しました。授業や研究会などでぜひご利用ください。

ジュリスト内容総索引CD-ROMを購入しました

ジュリストの創刊号から1100号まで44年間の記事情報を収録した「ジュリスト内容総索引CD-ROM版」を購入しました。執筆者名やフリーワードによる検索、分類語検索などが可能です。総合情報センター図書館のスタンドアローンのCD-ROM検索性パソコンでご利用いただけます。利用時間は、月～金の9:00～17:30(授業のない日は17:00まで)です。

表紙の写真「ワリッキイ・メコノプシス」について



…モンスーンの雨期の到来と共に“青いケシ”の各種が咲き始める…  
(「ブータンの花」p.30)

最近何気なく手にした種苗店のカタログに、あの花を見た…ヒマラヤに咲く幻の花“青いケシ”。メコノプシス属の珍しい植物だ。ワリッキイ・メコノプシス (Meconopsis wallichii) は、目に鮮やかな紫紅色の大輪の花を咲か

せる。すっきりとした花姿はまさに名花と呼ぶにふさわしい。写真は、中尾佐助先生が、1958年にブータン国王に招聘されたおり、セラ・ラ峠付近で撮影したものである。

Uホール白鷺の利用状況

(平成14年4月～平成15年3月)

年月日	行事名
14.4.5 (午前)	入学式(農・経・総)
同 (午後)	同 (工・社)
14.4.6	工学部オリエンテーション
14.4.11～14.7.4	経済学部授業公開講座(木曜日・11回)
14.6.2(9時～)	工学部オープンカレッジ
(10時～)	友好祭
14.6.16、14.6.23	大学ガイダンス
14.7.16～14.7.19	障害者問題論
14.9.2	大阪シンフォニカー公開練習
14.9.14～14.10.12	府民講座(毎週土曜日5回)
14.10.26	工学部応用化学創立60周年記念講演会
14.11.2～14.11.4	白鷺祭
14.11.9	日本道教学会
14.12.5	経済学部シンポジウム
14.12.9	日本ディスタンスラーニング学会
14.12.10	南大阪地域連携フォーラム
14.12.25～14.12.27	障害者問題論
15.1.6	
15.3.24	学位記授与式
15.3.29～15.3.30	農学部セミナー

アウリオン 第18号

平成14年12月20日 発行

大阪府立大学総合情報センター

〒599-8531 堺市学園町1-1  
TEL: 072-254-9152 FAX: 072-254-9939  
URL: <http://www.center.osakafu-u.ac.jp>



古紙配合率100%再生紙を使用しています